

NEWS LETTER



NO.30

2008.3.1

発行：にほんごひろば岡本

〒658 - 0003 神戸市東灘区本山中町 4 - 18 - 22

☎078 - 453 - 5931

にほんごひろば岡本

<http://www.kabto-yama.ac.jp/hiroba/>

初 冬 の あ る 日

初冬のある日、私たちの「にほんごひろば岡本」に1枚の賞状と立派な盾が届けられました。神戸市社会福祉協議会からの感謝状と記念の品です。数年にわたるボランティアグループとしての活動に対して贈られたものです。正直、とても驚き、戸惑いを覚えました。このようなものを頂いていいのだろうか。

多くの方の協力を得て「にほんごひろば岡本」が誕生して8年、とにもかくにも今日まで続けてこられたことが認められ、今後の活動への期待と激励を頂戴したことに、身の引き締まる思いがしています。これまでの活動を支えて下さった支援者、学習者の皆さん、そして現在ともにひろばで活動して下さい多くのの方々にご報告し、心からお礼を申し上げます。

あらためて振り返った時、忘れ得ぬ人々のあの顔この顔が目に残ります。立ち上げからグループの中核メンバーとして大きな足跡を残し、今は故郷の広島で静かに眠る佐古田幹子さん。日曜日の夕刻、御影公会堂での日系ブラジル人の学習を担って下さった関野聡美さん。バーベキューやお楽しみ会などの立役者、四本さんや竹中さん。「ひろばが私の原点です」と言って、日本語教師として第一線で活躍している福原香織さん。今は社会人としてそれぞれの場で活躍している学生ボランティアの皆さん。遠く異国の地で日本語教育と向き合っている人たちなどなど。

また、ここでの日本語学習や交流をとおして「日本と日本人への考え方が大きく変わりました」との言葉を残して帰国した朴鍾日君など韓国人や中国人留学生の皆さん。ひらがな、カタカナから学び始めて、その成果を見事なスピーチで披露してくれたベトナム人のラム君とその家族。右も左も分からない日本で、出産や育児にたくましさを発揮、支援者と喜びや苦しみを分かち合って新天地へ旅立った吉岡モニカさんや宮本メイリンさん。ユーモア溢れる日本語スピーチで会場をわかせたり、お楽しみ会のゲームで楽しませてくれたスコットさんやウィルさん。日本語能力試験1級に見事合格し、日本企業のニューヨーク支店で働いているアメリカ人のグレッグさん。沖縄の祖母に会いたいと来日、弁当工場で猛烈に働いて弟や妹の学資を稼いでいた日系アルゼンチン人の城間オラシオさん。歯医者さんになるという夢の実現のために頑張っていた日系ブラジル人のシルビアさん。学習者と支援者から人生のパートナーとなって、台湾で幸せに暮らしている余冠賢さんと紀子さん。色々な人たちの顔が、それも最高の笑顔が浮かんで来て、温かいものがこみあげてきます。

ひろばでは今日も、多数のペアが日本語学習をとおして、異文化との触れ合いをし、交流を深めてい

ます。水曜日の昼間は、学習者も支援者も主婦の人たちが多く、生活面での情報提供や相談ごとなどで盛りあがっていることが多いようです。近くのタイ料理店のシェフも休憩時間を利用してやって来ます。陽気なアメリカ人やカナダ人の元気な声も聞こえてきます。夕方からは学校帰りの子供とお母さん、大学進学をめざして頑張っている就学生、企業で働く社会人などさまざまです。土曜日は、留学生や社会人に交じって小学生、中学生も来ています。家族揃って学習している人たちもいます。小さい子供を預けて来ている学習者、支援者の方もいますが、現状では託児はなかなか困難で心が痛みます。

ホームページをみたり、ボランティアセンターなどで知って訪れる学習希望者のほかに、先輩の紹介で留学生とその家族や友人が次々とやって来たり、短期留学を終えて帰国した留学生が結婚相手を伴って再び学習を始めたり、かつての学習者の子供が来たりというケースなどが最近増えてきました。また、韓国に留学した支援者が、ここでの学習者と再会し、家族ぐるみの交流が続いているのを知らせてくれました。「にほんごひろば岡本」が、かけがえのない出会いの場であることをしみじみと感じています。

支援者の方々も、自分自身や家族の状況の変化などで、いっとき休まなければならないことがあったり、全力投球できない時期があるかも知れませんが、「気負わず、気長に、楽しく！」やっていきましょう。

小さな地域の日本語教室にできることは、本当にささやかなものであるかも知れませんが、「継続は力」を胸にこれからも息の長い活動を続けていきたいと思っておりますので、どうかよろしくお願いいたします。(西村佳子)

みんなのひろば

2007 年 年忘れお楽しみ会

(2007 年 12 月 16 日)

ひろば恒例のイベント、年忘れお楽しみ会が 12 月 16 日、行われました。今年も多くの人に参加してくださり、なんと 77 人にもなり、大盛況でした。たくさんの食べ物・飲み物が用意され、にぎやかなテーブルになりました。

支援者の手作り料理のほか、学習者も自慢のお国料理を持ってきたり、珍しい料理にみなさん大喜びでした。後日、レシピの交換などもありました。



今年のパーティーは、昨年も参加して下さった高山先生指揮「ボイス・アーツ・アンサンブル」のみなさんによる「ぞうさん」の合唱でスタートしました。可愛い女性たちで昨年は男性陣の目が輝いていましたが、今年は社会人になった方もおられ、よりフェミニンでとても素敵でした。「大きな栗の木の下の」を振り付きでみんなで歌い、最後には、紀香・陣内の披露宴で有名になったコブクロの「永遠とともに」を素晴らしいハーモニーで歌ってくださいま

した。

飲食・歓談の後、お楽しみ会恒例の「スピーチ大会」です。今年は司会を第1回スピーチ大会の最優秀者のラーワンさんが務めてくれました。参加者は9人で、



興味深いもの、おなかを抱えて笑ってしまうもの、上級のなめらかなものなど、バラエティーに富んでいました。最優秀者は

楊文瀚（ヤン・ブンカン）さんとマイケル・スコットさんでした。

次はまたまた恒例になりました、学習者によるパフォーマンスです。楊潤洲くんがサックスで「ハンガリー舞曲」を演奏したり、ご存知ヴィットさんのブレイクダンスなどで気分は最高潮です。そんな中、昨年大好評だった大道芸ボランティアさんが今年も参加。南京玉簾や皿回しに加えて



「どじょうすくい」を安来節に併せて披露してくださいました。学習者に何も説明しなくても踊りの意味はわかるようで、息をのんで面白い仕草を楽しんでいました。

最後に、みなさんご存知の「ひょうきんコンビ」のウィルさんとスコットさんによるゲームが展開されました。絶妙な掛け合いで抱腹絶倒、本当にありがとうございました。彼らはこの春、ひろばを卒業しましたが、これからもイベントには参加するそうですよ。

次回のお楽しみ会はどんなサプライズがあるか、みなさん楽しみにしてください。



☆スピーチ大会出場者の横顔

1. 楊文瀚（ヤン・ブンカン）さん（中国）

「日本でびっくりしたこと」

何だか分からないまま、ラーメン屋さんの行列に並んで・・・

楊さんの詳しい紹介は7ページの「学習者紹介」に載せています。



2. デニスさん（ホンコン）

「忘れられない旅行」

いろいろな所に旅をした楽しい話に加えて環境問題にも触れた興味深いスピーチでした。



3. ム・ユリンさん（中国）

「中国と日本のちがい」

日本人の知らない現在の中国の子供たちの様子、びっくりしました。



4. ワーリー・パウルガーさん（アメリカ）

「わたしの先祖」

ずっと笑っぱなしでした。私たちも先祖探しがしたくなりました。

ワーリー・パウルガーさんの楽しいお話は7ページの「学習者紹介」を読んでください。



5. アンドナトス・アサナシオスさん（ギリシャ）

「ギリシャについて」

ふるさとを思う気持ちがとてもよく伝わりました。

6. ウィッサムさん（イラク）

「私の友達」

男女の恋愛詩。雰囲気抜群の朗読でした。

7. 李 俊瑤（リ・シュンヨウ）さん（中国）

「キンモクセイ」

お話の中から、キンモクセイの香りがするような、なめらかな日本語でした。



8. マイケル・ウィルキンスさん（カナダ）

「外国人の話すおかしな日本語」

日本人が気付かなかったお話、とても面白かったです。



9. マイケル・スコットさん（カナダ）

「日本のたいせつなもの」

日本での春夏秋冬の必須アイテムを楽しく教えてくださいました。

日本人にも外国人にもとても役に立ちました。

支援者・学習者紹介

☆松岡紀子（まつおか のりこ）さん

☆キム・ドンオン（金 東恩）ちゃん

（韓国出身・女子）

『ずっと日本語を好きでいてね』

はじめまして松岡紀子です。（次頁写真左端）

3 月末までの予定で神戸 YWCA 日本語教師

養成講座で日本語教師の勉強をしています。昨年の夏ごろから、にほんごひろば岡本で支援を始めました。私にとっては日本語が身近過ぎて、教える対象の言語として客観的に見るのが難しいなあと感じています。

自分が外国語を学習した時のことを思い出して、レアリア（実物）の教材など、とにかく楽しくしたい！ と意気込みはあるのですが、なかなか思うようにはいかず、四苦八苦してい

ます。



さて、私の学習者のキム・ドンオン（金 東恩）ちゃんは韓国から来たかわいい女の子です。

お父さんの仕事の関係で、2年前の6歳の時に家族と来日し、今はインターナショナルスクールの3年生です。日本の小学校に2年生の夏まで通ったそうで、普段私と話す時は日本語でも問題はありません。

ドンオンちゃんは水曜日の夕方、学校が終わってからお母さん（写真中央・大西勇さんと学習しています）と一緒にひろばに来ています。

初めて会った時はとても静かだったので「ちゃんと話してくれるかな」と不安だったのですが、心配はいりませんでした。声はちょっと小さめですが、元気よくいろんな話をしてくれて楽しいです。

本を読むのが好きで、お兄さんの本を借りて読んでいるそうです。スイミングスクールにも通っていて、得意な泳ぎはクロール。よくドーナツ屋さんに行った話を聞かせてくれます。好きなドーナツはチョコレートで、ドーナツのキャラクターがついたグッズをいろいろ持っています。

彼女は、通っている学校の授業科目でも日本語が好きだそうです。同じ学校の日本人の子よりも得意だとか。

ひろばの勉強では、教科書で文法の確認をしながら漢字や短い作文の練習をしています。ドンオンちゃんがこれからもずっと日本語を好

きでいてくれるように、一緒に楽しく勉強していきたいと思っています。

☆佐野 静香（さの しずか）さん

☆カリン・グリーンングさん

（スイス出身・女性）

良き出会いをありがとう

こんにちは、はじめまして。「にほんごひろば岡本」のちょうど線路をまたいだ向かいにある「愛甲法科専門学校」で日本語教師養成講座を受



講し、そこからの紹介で2007年の11月末からお世話になっている佐野静香と申します。

スイス出身の主婦カリンさんは、3人のお子様がいらっしゃいます。旦那様のお仕事の都合でスイスから家族5人、5年前に来日されました。月に1度ペーパークラフトの先生もしてらっしゃるそうで、初めてお会いした時から、笑顔がステキでとても明るく、話しやすい方でした。

今は、「みんなの日本語」の教科書を使って会話を中心に日本語の練習をしています。

「日本語はまだまだ・・・」とおっしゃっていますが、日本の文化もよくご存知で、お茶が大好きだそうです。「クリスマスに日本人はチキンを食べます」と言うと大変驚いていましたが、お正月も節分もバレンタインデーの文化もよくご存知で、逆に私がスイスの文化を教えてもらっています。

カリンさんはハイキングが趣味で、今年のお正

月も六甲山を家族と一緒に登ったそうです。話題も豊富なので、ついつい会話に花を咲かせてしまい支援の1時間半もあったという間に毎回終わり、とても楽しい時間を過ごしています。

カリンさんはもう「みんなの日本語」を学習済みなので、会話もとてもスムーズで、ひらがなの字もとても綺麗。文法の助詞の「は」と「が」の違いなど、いい質問をしてきてくれます。宿題もきちんとやってきてくれるので、私も教案をしっかり練って、楽しい時間を共有したいとおもっています。

学習者紹介

★楊 文瀚さん(中国出身・男性)

2007 年スピーチ大会のチャンピオン

ヤン・ブンカンさんは、昨年(2007)の年忘れお楽しみ会で「日本人はなぜ並ぶ?」とスピーチを展開して、すでに皆さんの前に華々しくデビューを飾りました。大阪梅田のラーメン屋の長い人の列にびっくりしながら、自分もその後ろに並んでみたという、あの話の主が「ブンカンさん」こと、楊 文瀚さん(20歳)です。

中国・湖南省から、昨年(2007)4月に、日本で仕事をされているお父さんを頼って神戸へ来ました。目指すは日本の大学に入って経済学を修めることだそうです。来日後、大阪YMC Aで日本語の勉強を始めていて、昨年10月、にほんごひろばのバーベキュー大会で初めて会ったときには、もうすらすらと会話ができました。そして



早くも昨年12月の日本語能力試験には、見事2級に合格しました。

人柄は温厚で礼儀正しく、まじめで明るい好青年です。ひろばでは、日本語を勉強するというよりも、YMC Aで学んだ日本語を、日本人との会話で使いこなせるようになりたいという、明確な目標を持っています。

ブンカンさんと私は決まった教科書を使わず、思いつくままの雑談を中心に楽しい時間を過ごしています。

とはいえ、私のベタベタの関西なまりは、ブンカンさんにとっては学校で習うものとあまりにも違い過ぎるようです。でも私は強弁します。「これが生活者の日本語ですから分かるようになってください。そして分からないことがあったら、あなたが学校で習った日本語で質問してください。そうすれば、日本人ならだれでも、あなたと同じ言葉で答えてくれるでしょう」と。「はい、よく分かりました」そこは理解の早いブンカンさんです。

皆さんもブンカンさんの姿を見かけたら、どうぞあなたの言葉で話しかけてあげてください。ブンカンさんはきっとにこにこしながら、きれいな日本語を返してくれることでしょう。(大西 勇)

★ワリー・バウルガーさん

(アメリカ出身・男性)

楽しいアメリカ人

スピーチコンテストのとき、大きな体が壇上でにこにこ笑っていてなかなか話し始めません。観衆の人々がちらほらと笑い出しました。どうしたのだろう。ほとんど日本語が話せない彼には、やっぱり無理だったのだろうか。小心のわたしは心臓がドキドキし始めました。

ところが、観衆の目を引き付けてから、堂々とした態度での「私の先祖」という話に皆の笑いを誘い、大変楽しいスピーチになっていました。司会の方から「その話は本当ですか?」と、聞かれ

たときもパフォーマンスで切り抜け、これも大うけでした。

このコンテストがあると知ったとき、彼は「出場します！」と……。隣で勉強していた学習者は「私はまだまだです」と、静かに断っているのをよそ目に……。気の小さな私は、いったいどうなるのだろうと心配をしましたが、「僕にはいい



考えがあるから楽しみにして下さいね。僕のスピーチと

ても面白いから」と、英語で宣言し、目を輝かせていました。

結婚して1年の奥様と奥様のご両親のお骨折りがあったことでしょうか、豪放磊落なたいした人です。

彼は人がいっぱい集まってにぎやかにお喋りできる機会が大好きです。「ひろば」でのBBQパーティ、年末パーティと、積極的に人々に英語で話しかけ友だちもでき大変楽しんだようです。社交的で全く物おじすることのない性格、人を引き付ける魅力にただただびっくりしています。

彼の仕事は経営コンサルタントです。アメリカとのやり取りは時差の関係で夜中にコンピューターでする昼夜反対のお仕事で、金融不安の続くアメリカ情勢で大変なようです。でも「奥様の幸せは僕の幸せ」と、仲のよい家庭を築いていらっしゃいます。

学習の様子は、まず、現在のテキスト内容に関係なく、自分流で一生懸命考えて書いてきたバラバラのメモ用紙をたくさん持ってきて「今日はど

れだっけ」と、探しながらその言葉の意味の質問から始まります。

彼独特のジョークの混じった日本語まじりの英会話に、シャレの分からない英語力の貧しい私とのやり取りは、まさに新しい漫才コンビのようなのでしょうか。周りの人から「聞くつもりはないんだけど、彼は声が大きいので聞こえてくるのよ。楽しいアメリカ人ね。おかしくって笑ってしまいます」と言われたりしています。当事者は必死ですが一度我々の会話を冷静に第三者の立場で聞いてみたいものです。

こんな凸凹コンビですが、これからも楽しく支援を続けていきたいと思っています。

(尾本 里枝)

チンタオ便りVol.3



みなさんお元気ですか？平松 久です。

「先生！」と呼ばれて1年たちました。学校の先生方、学生たち、友人たちに支えられすっかり青島生活に慣れた気がします。

まず中国語のお話から

いまここで告白しますが夏休み前までは授業のこと、生活のことで精一杯、中国語学習は後回しになっていました。

学生には中国語よりも日本語を使い続けるのが最善だと意地になることで自分に甘えていたと思います。漢字を覚えて作文しても発音の仕方がわからない。カタカナにできない、つまりちょ

っとした話さえ通じないのです。

夏休みに友人が訪れましたが、期待されるほど動けなくて食事や買い物に不自由しました。一緒に日本へ帰るなら旅行珍道中でいい思い出になるのですが私は受け入れ側。本当に一人になると何もできない自分に気づいたのです（友人が帰国したあと寝込みました）。

「やっぱり独学じゃなくて、少ない時間でもいいから先生がほしい」と周囲の人たちに相談すると、親しい日本語学校の副校長が先生を紹介してくれて場所まで提供してくれました。

つまり発音の基礎を始めたのは10月から。レベルチェックの質問には独学していたぶん、部分的に答えられるので基礎はとばしましょうか？と聞かれましたが、「いや初めからお願いします」。

始めてみると今まで通じなかった単語が通じようになり、覚えてくると文章が聞き取れるようになる。そして学生に手伝ってもらい書き取りテスト。秋からの新入生はその姿に喜んで応援してくれます。去年教えていた学生に話しかけてみると「先生、いつのまに？すごいじゃん！」そのせいで、教えていない学年の子にはわからなくなったとき中国語で質問されます（ごめんね、まだ全部はわからないのよ）。

これまで学生にそんな姿を見せると日本語を勉強しなくなるとか、学生には一切中国語を使っ
てはいけないなどの手記を読んでいたのですが、やはりケースバイケース、安易に常識を作るのは危険です。私のいるところは日本語だけを勉強をする学校ではなくて一般高校なのです。

街ではいつもいく按摩の所のお兄さん、夏前から通っているわりには私の素性を知らなかったわけで、中国語がわかるなら簡単な言葉を選びながらですが話すようになりました（だいたい立ち話って簡単な会話なんですよ）。

次に写真の話

10月に「教師の日」というのがありまして、学校職員のための大規模なパーティー。教科ごとで

出し物をするのですが、ある日小声で

「平松先生、歌が上手ですか？ 歌ってくれますか？」



「うまくないけど好きですよ。ギターがあればいいですね」

「あります！持っている先生から借りてきます。来週音楽室で集まって練習です」

その練習日、音楽室に集まった他の教科の大勢の先生たちと私。そう、日本語科はみんなで出し物を考える気が全くなかったようです。私も嫌いじゃないし学校のイベントで一人で弾き語りなら目立っていいかも？なんて思いまして。リハーサルほどではない集まりだったのでギターが好きな先生たちと遊んでいたら、そこにいた副校長が「聴かせてほしい」こういう時が実は一番緊張するときです。曲は中国でも知られている「乾杯」。こちらでは「乾杯朋友」だそうです。

「これは知っている。中国語でできますか？」

「できません！」

そして本番。

結婚式会場で来賓客も大勢、ここで歌うのか。日本語だしさっと終わろうかと思っていたら予想外に注目されているのがステージから見えました。楽しんでくれているというより凝視していました。でも今までで一番多い人の前で歌って気持ちよかったです。

後日、普段接しない職員の人たちにも私の存在を覚えてもらえて、引き受けてよかったと思いましたね（忘年会では酔いつぶれていた時に校長から歌ってください！といわれて死にそうになりながら歌いました）。

そして学生たちとの写真

去年担当した2年生はそれぞれの進路にわかれていきましたが、3年生で日本研修を目指すクラス約50人が今回の私の受け持ち。面接合格者は夏から日本へ行きます。

研修先のホテルから面接官がくるので、面接に対応できる会話力をつけるのが目標でした。日本人教師の時間が増えたので、本当は面接だけでなく日常会話を身につけさせるべきなんです。50人相手に日常会話練習は難しいです。実践は休憩時間などで頑張ってもらいました(つまり私と遊ぶこと)。50人を相手に、どうすれば何をすればいいか模索する毎日でした。これからも悩み続けると思います。

面接はシュミレーションの暗記では足りないんだという概念を言葉では説明できないので、暗記で何が悪い!という反発もあったし、模擬面接



でまったく聴き取れず脂汗をかく学生もいたし、泣いてしまう子もいました。ここでやっと一人になって実力を思い知らされるわけですからね。

そして、面接前日の写真がこれです。何とも晴れた顔をしていると思いませんか? 私もここまでくると叱ることもないし難しいことも言わない。できるだけリラックスして日本語を話してくれればよしとしていたのでいい写真が撮れました。

最後に

「話題に夢中になって、いつのまにか外国語を話す苦勞を忘れていた瞬間が私は大好きです!」

学習者のひろば

スピーチ大会に出場予定だったパクさん、急用で一時韓国に帰国し、出場できなくて残念でした。是非掲載してほしいと、準備していた原稿を届けてくれました。

『コチュジャンのはなし』

朴 孝貞(パク ヒョジョン)

かんこくで りょうりが いちばん おいしいところは チョルラドです。

チョルラドは ソウルとプサンのあいだにある ばしょです。

ピビンバブやコチュジャンで ゆうめいなまちが あります。

スンチャンにある むかしから つづいてきた コチュジャンを つくる ひけつの おはなしを します。

ソウルでけっこんした じょせいは おかあさんから おしえてもらったとおりに コチュジャンを つくりました。

でも おかあさんが つくった コチュジャンの あじと ちがいました。「どうして おかあさんの あじと ちがうのかな?」とかのじょは かんがえました。

やさいが わるいのかなと かんがえて スンチャンのやさいとみずで もう いっかい つくりました。

でも まだ おかあさんが つくった コチュジャンの あじ じゃ ありませんでした。

かのじょは とても かなしかったです。

さいごに スンチャンの おかあさんの いえで コチュジャンを つくりました。

とうとう おかあさんが つくった コチュジャンと おなじ あじが できました。

このように おなじ ざいりょうを つかっても そのの かぜや しつどや きおん が じゅうよう です。

コチュジャンを つかった りょうりには

たこの コチュジャンいため ピビンバプ ピ
ビンめん ぶたにくのコチュジャン プルコギ
など たくさん あります。

わたしは コチュジャンプルコギが いちば
ん すきです。



※ 2008 年 の NEWS
LETTER 表紙ページのイ
ラストはパクさんが描
いてくれました。あり
がとう。

スピーチ大会で「キンモクセイ」の素敵なお話を
してくださった李俊瑤さんが、もう一つお話を寄せ
てくれました。

『いのしし』

李 俊瑤 (リ シュンヨウ)

神戸は山が近いので猪を見た人は多い。周りの
中国人はほとんど猪と顔を合わせたのに、私だけ
縁がなかった。

故郷の大連では町の中で野生動物を見ること
はない。みんなの猪との出会いを聞いて、うらや
ましかった。

その顔は絶対怖いだろう。

なぜなら、昔、小学校で「猟師の猪狩り」とい
う文章を勉強した。猪は鼻が長いし、走るのもす
ごく速い、怒ったら木を根こそぎにするというイ
メージをその時に持った。けれど、日本語でこの
怖い動物を「いのしし」と読むのはいささかかわ

いい感じがする。そのうえ、友達の龍さんの話で
「2 匹の猪の親が 4 匹の赤ちゃんを連れて、1 列
に並んで川を横切ったよ」どんなかわいいシーン
だろう。

多分、猪は私が嫌いだからなかなか見られない
んだらう。たまに山のほうへ行って彼らを探した
いのだが、主人と娘は応援してくれない。一人で
行くと、万一出合ってしまったら……

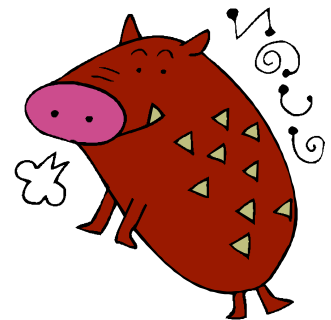
そして、ある日のこと。

朝、仕事に行く途中で、うるさく泣く子をあや
しているお母さんを見た。まだ小さいから甘え盛
りだと思いながら、ふっと川を見ると猪が横にな
っていた。

信じられない！ ずっと待っていたのに私と
彼らはこのように出合った。太いし、大きかった。

2 匹の猪は豚と変わらず、勝手気ままにのんび
りしていた。ちっ
とも怖くないけれ
ど、かわいくもな
い。

憧れているシー
ンと違ってその日
は朝から、私はな
んとなくがっかり
した気持ちだった。



世の中の物事は大体そうだろう。長く待ってい
るうちに、自分の想像以上に美化してしまったり。

友達も、恋人も。そして私はずっと懐かしがっ
ている故郷もそうに違いはない。会ってショックに
なるより会わないほうがいいのかもしい。

心の中に故郷は帰れないところになってしま
った。

■お知らせ■

＊ひろばのお花見＊

2008 年 4 月 6 日 (日曜日) を予定しています。さくらの開花状況により、変更もあります。
詳しくはひろばの黒板を注意して見てください。

●アンケートへのお願い●

いままで、何回か行ってきましたステップアップ講座や支援者交流会など、より良いものにするため、アンケートを実施したいと思います。何卒ご協力下さい。

後日アンケート用紙を配布しますので、全員のご返答をお待ちしています。

CONTENTS

- ★みんなのひろば 2007 年 年忘れお楽しみ会レポート……………2
スピーチ大会・出場者の横顔……………4

- ★支援者・学習者紹介 松岡紀子さん キム・ドンオンちゃん……………5
佐野静香さん カリン・グリーンングさん……………6

- ★学習者紹介 楊 文瀚さん……………7
ワーリー・パウルガーさん

- ★チンタオ便り Vol.3 平松 久さん……………8

- ★学習者のひろば パク ヒョチョンさん……………10
リ シュンヨウさん……………11

★お知らせ



〔編集子のつぶやき〕 「春は名のみ・・・」3月も間近になって雪がたくさん降りましたね。みなさん、風邪など引いていませんか？ 花粉情報に踊らされて、風邪なのか花粉症なのか判らないわたしです。2008 年は3月に新春号を発行しました。今年もよろしくお願いします。(I・M)